

神社の杜(四十三)

御岳ビジターセンター 片柳 茂生

今年の梅雨に異変あり？

セミといえば夏を思い起こさせる生き物ですが、実は春から発生が始まっています。五月の連休を過ぎた頃にまずハルゼミが鳴き出します。

声はムーゼー・ムーゼーとちよつと低い声であり蝉らしくありません。針葉樹林を好むように御岳山では樅や栂の木が林立する富士峰園地でよくその声を聴きます。その後エゾハルゼミが出てくるのですが、その声は一風変わっていて、ミヨウキン・ミヨウキン・ケケケケケと全く蝉らしくありません。こちらはハルゼミと違って広葉樹林を好み、神社の杜は格好の住処のようです。



今年、このエゾハルゼミがちよつと変だつたのです。

梅雨の時期御岳山は、濃い霧に包まれる日が多くあります。平地では曇りでも山の上は霧の中、そんな日が多いのです。梅雨の晴れ間はもちろんのこと、霧がはれ、ちよつと薄日が差し始めた時など、その時を待っていたかのようにエゾハルゼミは鳴き出します。鳴き出しのきつかけを一匹がつくると、他のエゾハルゼミもそれに応えるように一斉にミヨウキン・ミヨウキン・ケケケケ・と輪唱が始まります。その合唱は森全体に響き、野鳥の声などかき消されてしまうくらい大きなものになります。セミは雄しか鳴きません。この鳴き声は、雌へのラブコールなのです。この時期を逃すまいと雄たちが声高らかに鳴き競つていようです。

と、ここまでは例年のことですが、今年はどうも様子が変です。梅雨の晴れ間のある日、エゾハルゼミの合唱がいつもの年に比べて五月蝭くない

ことに気づきました。雨の日が多くて鳴く機会が少なかったのか、あるいは幼虫から選んだ成虫の発生数が少なかったために大合唱が聴かれなかったのか、それとも晴れている日が少ないのか解説員の頭を悩ませてくれる出来事でした。

アメリカには、十七年ゼミと言うセミがいます。土の中で暮らす幼虫の期間が十七年とものすごく長生き？するセミです。しかも普段年は、全くと言って良いほど見かけることがないのに、十七年に一度街中蝉だらけになるほど大発生すると言われています。

皆さんご存じのアブラゼミは、幼虫期間が七年であるのに対し、エゾハルゼミのそれは長く十五年と言われています。しかしこれはまだ実際には確認できていません。もしこれが事実であれば、十五年後の二〇二九年は静かな梅雨になるはず

です。今年、異常気象の影響でたまたま少なかったのか、それとも十五年という周期で発生数が少ないのか。十五年後、もし皆さんが覚えていたらぜひ確かめて下さい。ひょっとしたら大発見になるかもしれませんよ。

表紙写真 鈴木新吾 「新神楽・天の岩戸」

天字受賣命が舞を神々が楽しむ声を聞き、天照大神は姿を現し世界は明るくなりました。現代においても皆様の楽しむ声が明るい世の中を造る原動力となることでしょう。

過日、参拜の方に神様の存在についてお尋ねになる方がいらつしました。確かに都会での生活の中では、自然そのものである神様の存在を感じる機会は少ないのかもしれませんが、只、心の中に神様がらつしやるか否かで、感性は一変します。感謝する気持ちが生まれ、穏やかで暖かい気持ちとなります。苦しいときは、耐え忍び、新しい一歩を踏み出す勇氣が生まれます。

自然が持つ恵みや試練、それは神様そのものであり、あなた自身の歩む道でもあります。南峯御嶽講 書問様、下長淵御嶽講 野村様、川越市 上戸御嶽講 鈴木様、齋藤愼一先生、ビジターセンター 片柳様には玉稿をありがとうございました。

平成二十六年九月二十九日発行
 (年一回発行・非売品)
 編集 武蔵御嶽神社
 TEL (0476) 781-8500
 FAX (0476) 781-9741
 http://www.musashimikakejin.jp/
 印刷 (株)成和印刷